

# 中小企業動向調査

この調査は富山県内企業396社を対象に実施し、281社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成25年10月～12月の実績、平成26年1月～3月の見込み、平成26年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成25年12月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	174	128	73.6%
非 製 造 業	222	153	68.9%
計	396	281	71.0%

日銀が2月19日に公表した、北陸の金融経済月報（2014年2月）によると、「北陸の景気は、穏やかに回復しつつあり、このところの個人消費や住宅投資で消費税率引上げ前の駆け込み需要もみられている。最終需要をみると、個人消費は持ち直しの動きがみられている。

最終需要をみると、個人消費は穏やかに持ち直している。また、設備投資は底堅く推移しているほか、住宅投資は増加しており、公共投資は増加しており、公共投資は増加傾向を維持している。

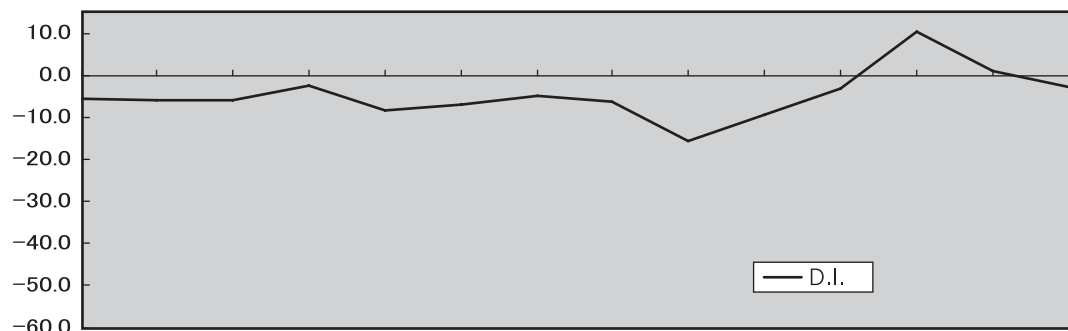
先行きについては、「国内需要の底堅さと海外経済の回復を背景に、穏やかに回復していくと考えられる。」としている。

## I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良 い	17.5	19.4	15.4	17.9	15.1	14.3	14.7	15.7	10.4	14.2	13.7	24.3	16.2	11.4
普 通	59.5	55.4	63.2	61.8	61.6	64.6	65.8	62.5	63.7	62.2	69.6	62.0	68.8	74.5
悪 い	23.0	25.2	21.4	20.3	23.3	21.1	19.5	21.8	25.9	23.6	16.7	13.8	15.1	14.0
D . I .	-5.5	-5.8	-6.0	-2.4	-8.2	-6.8	-4.8	-6.1	-15.5	-9.4	-3.1	10.5	1.1	-2.6

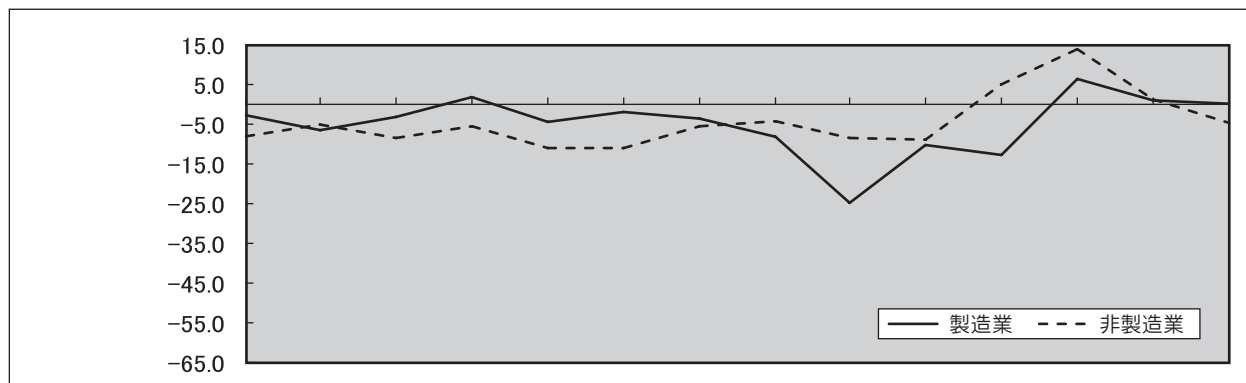


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）												見込	予測
種別	期別	23 年				24 年				25 年				26年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	20.3	20.8	17.1	21.6	19.4	16.2	15.3	13.6	6.2	16.8	10.5	21.6	14.6	11.5
普	通	56.5	51.5	62.5	58.2	56.6	65.4	65.6	64.4	62.8	56.0	66.2	63.2	71.5	77.0
悪	い	23.2	27.7	20.4	20.1	24.0	18.5	19.1	22.0	31.0	27.2	23.3	15.2	13.8	11.5
D . I .		-2.9	-6.9	-3.3	1.5	-4.7	-2.3	-3.8	-8.5	-24.8	-10.4	-12.8	6.4	0.8	0.0

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測
種別	期別	23 年				24 年				25 年				26年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	15.0	18.2	13.9	15.0	11.7	12.8	14.3	17.5	13.7	12.0	16.3	26.5	17.4	11.4
普	通	62.1	58.7	63.9	64.7	65.6	64.0	65.8	60.8	64.4	67.3	72.5	60.9	66.4	72.5
悪	い	22.9	23.1	22.3	20.4	22.7	23.2	19.9	21.7	21.9	20.7	11.3	12.6	16.1	16.1
D . I .		-7.8	-5.0	-8.4	-5.4	-11.0	-10.4	-5.6	-4.2	-8.2	-8.7	5.0	13.9	1.3	-4.7



- こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の25年10～12月期実績は10.5と前期比13.6ポイント改善した。先行きについて、26年1～3月期のD.I.は1.1、26年4～6月期のD.I.は▲2.6と除々に悪化する予想となっている。25年10～12月期までは、改善傾向であったが、26年からは再び、悪化となった。しかし、悪いと回答のポイントは減少しており、普通とのポイントが高くなっている。
- 業況判断指数D.I.の25年10～12月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より19.2ポイント改善した。非製造業は前期より8.9ポイント改善した。先行きについては26年はどちらも悪化予想であり、10～12月期がピークとなっている。

## II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	39.4	35.8	33.9	36.5	30.0	33.5	26.3	28.4	22.3	30.6	32.3	43.1	33.9	18.9
横ばい	40.8	36.6	39.8	35.9	41.4	40.3	46.4	44.7	45.2	42.1	45.9	39.9	52.7	67.3
減少	19.9	27.7	26.3	27.5	28.6	26.3	27.3	26.9	32.6	27.4	21.7	17.5	13.4	13.8
D. I.	19.5	8.0	7.5	9.1	1.3	7.2	-1.0	1.5	-10.3	3.2	10.5	28.6	20.6	5.1

売上高状況（うち製造業のみ）

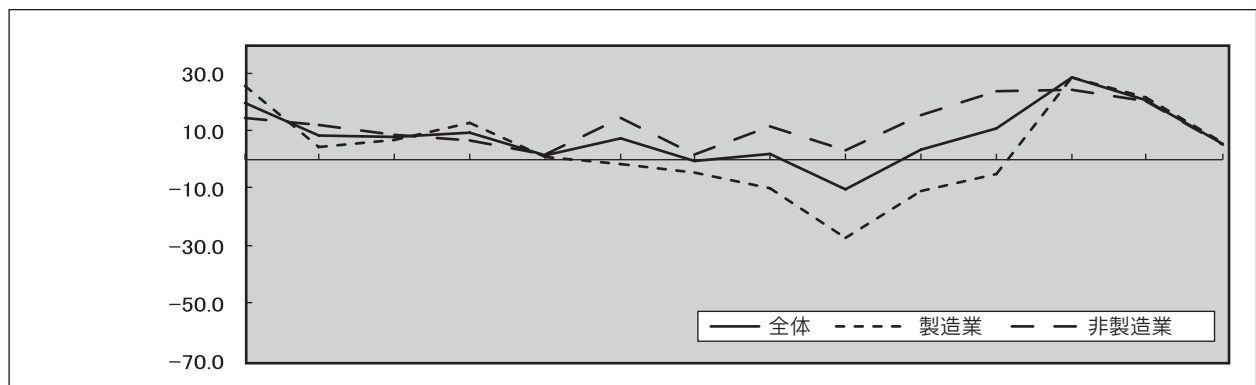
(%) 見込 予測

種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	44.6	34.0	33.6	36.2	27.9	28.0	24.4	24.5	12.3	22.8	25.3	46.0	34.2	20.9
横ばい	36.0	35.9	39.5	39.9	45.0	42.6	46.6	40.7	48.2	43.3	44.0	36.5	53.2	63.7
減少	19.4	30.1	27.0	23.9	27.1	29.4	29.0	34.8	39.5	33.8	30.6	17.5	12.7	15.3
D. I.	25.2	3.9	6.6	12.3	0.8	-1.6	-4.6	-10.2	-27.2	-11.0	-5.2	28.6	21.4	5.6

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	34.6	37.2	34.1	36.8	31.5	37.8	27.8	31.5	30.0	37.1	38.2	40.8	33.8	17.2
横ばい	45.1	37.2	40.1	32.7	38.7	38.4	46.3	47.9	42.9	41.1	47.5	42.8	52.3	70.2
減少	20.3	25.6	25.8	30.4	29.8	23.8	25.9	20.6	27.2	21.8	14.4	16.4	13.9	12.6
D. I.	14.4	11.6	8.4	6.4	1.8	14.0	1.9	11.0	2.7	15.2	23.8	24.3	19.9	4.6



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、D.I.は28.6となり、前期より18.1ポイント改善の回答となった。先行きについては、26年1～3月期はやや悪化予想となっており、売上高増加とするポイントは減少傾向にある。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、製造業は前期比33.8ポイント改善、非製造業は0.5ポイント改善となっている。製造業については、大幅改善となった。先行きについては、どの業種も悪化予想となっている。

### Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

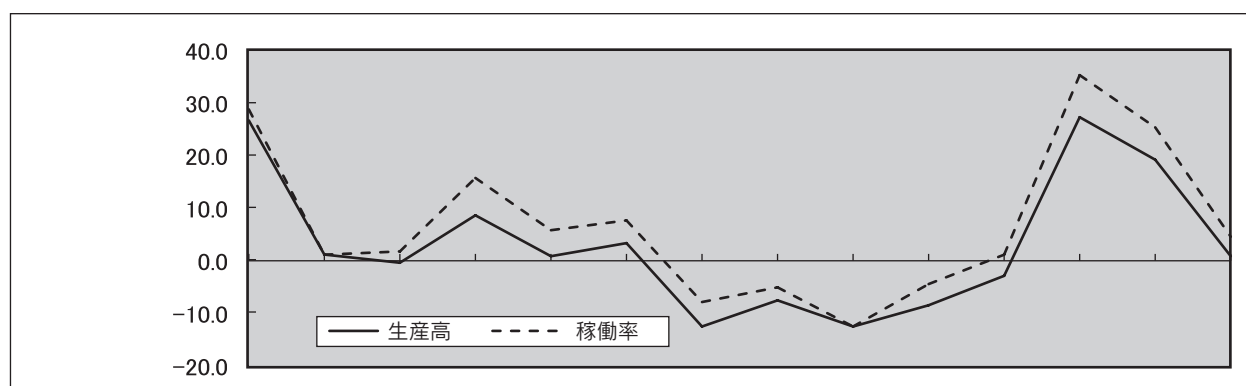
(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
20%以上増加	16.9	11.9	6.7	6.5	6.1	5.6	4.7	5.1	0.9	5.5	3.9	7.4	1.7	1.7
20%未満増加	28.7	19.8	21.5	28.1	22.1	25.0	17.2	20.5	19.6	17.2	19.5	33.1	30.0	16.9
横ばい状況	35.3	37.6	43.0	39.6	44.3	41.9	43.8	41.0	46.4	46.1	50.0	46.3	55.8	63.6
20%未満減少	14.7	21.8	24.8	22.3	25.2	22.6	28.1	29.1	24.1	21.9	24.2	11.6	12.5	16.9
20%以上減少	4.4	8.9	4.0	3.6	2.3	4.8	6.3	4.3	8.9	9.4	2.3	1.7	0.0	0.8
D . I .	26.5	1.0	-0.7	8.6	0.8	3.2	-12.5	-7.7	-12.5	-8.6	-3.1	27.3	19.2	0.8

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
上昇	19.1	12.1	5.6	7.4	6.4	4.9	5.7	6.1	0.9	4.7	4.0	8.6	2.6	2.6
やや上昇	25.0	19.2	20.1	29.6	21.6	25.2	13.9	10.2	17.9	16.5	20.0	33.6	31.3	18.4
横ばい	40.4	38.4	50.0	41.5	49.6	47.2	52.5	42.1	50.0	52.8	52.8	50.9	57.4	62.3
やや下降	11.8	20.2	19.4	18.5	19.2	19.5	22.1	27.2	23.2	15.7	20.0	5.2	7.8	15.8
下降	3.7	10.1	4.9	3.0	3.2	3.3	5.7	4.4	8.0	10.2	3.2	1.7	0.9	0.9
D . I .	28.7	1.0	1.4	15.6	5.6	7.3	-8.2	-5.3	-12.5	-4.7	0.8	35.3	25.2	4.4



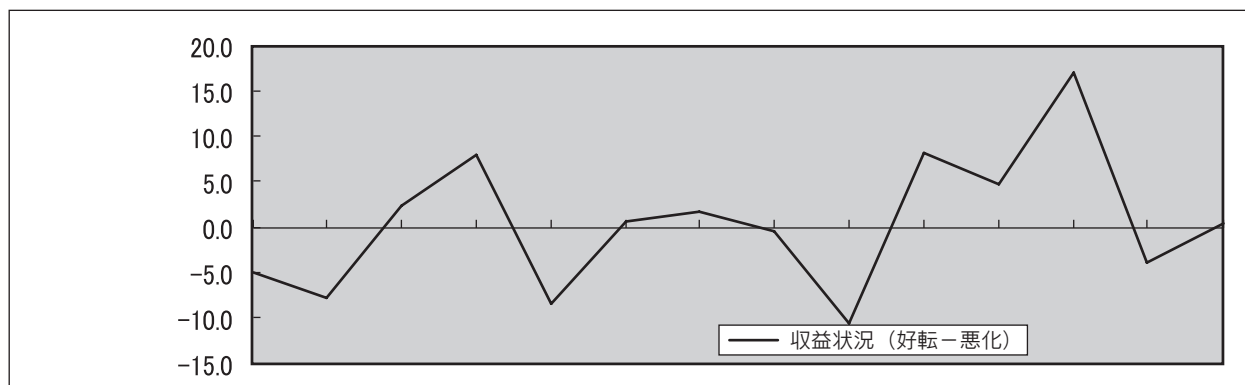
(1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.は27.3となり、前期比30.4ポイント改善した。生産高のD.I.は25年1～3月を底に改善してきており、今期がピークとなっている。先行きについては、今期より悪化する予想となっている。

(2) 稼働率についても、売上高、生産高同様に今期は大幅改善となっている。先行きについても、生産高同様の推移であり、悪化予想となっている。

## IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	20.2	19.8	24.8	26.4	17.0	19.5	19.7	20.8	15.8	25.2	19.3	28.5	14.2	13.3
横 ば い	54.8	52.7	53.0	55.3	57.7	61.6	62.2	58.1	57.9	57.9	66.1	60.1	67.6	73.8
悪 化	25.0	27.5	22.3	18.3	25.3	18.9	18.0	21.1	26.3	16.9	14.6	11.4	18.1	12.9
D . I .	-4.8	-7.7	2.5	8.0	-8.3	0.7	1.7	-0.4	-10.5	8.3	4.7	17.1	-3.9	0.4



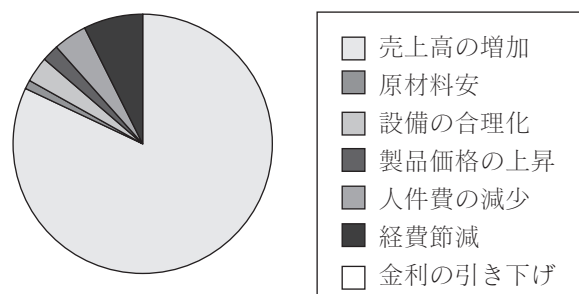
好転理由

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の増加	69.2	60.0	76.0	73.5	66.2	67.6	64.4	70.8	61.8	64.5	72.5	82.1	77.5	76.9
原材料安	1.3	5.0	3.0	4.1	1.5	9.9	4.1	4.6	1.8	4.3	0.0	1.1	0.0	0.0
設備の合理化	5.1	6.7	2.0	1.0	0.0	0.0	1.4	3.1	1.8	3.2	4.3	3.2	2.5	0.0
製品価格の上昇	5.1	6.7	2.0	2.0	2.9	2.8	2.7	3.1	5.5	4.3	5.8	2.1	2.5	5.1
人件費の減少	2.6	5.0	3.0	3.1	4.4	2.8	6.8	0.0	7.3	4.3	4.3	4.2	0.0	7.7
経費節減	16.7	16.7	14.0	16.3	22.1	16.9	19.2	16.9	18.2	18.3	13.0	7.4	17.5	10.3
金利の引き下げ	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	1.4	1.5	3.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0

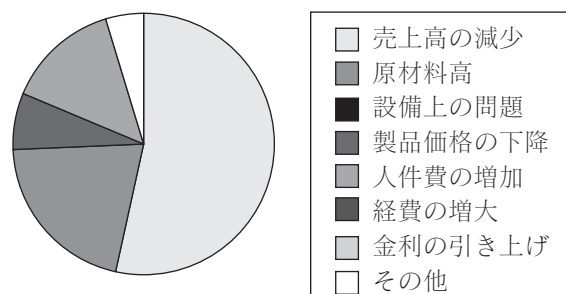
悪化理由

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の減少	55.4	53.7	56.1	50.0	55.6	59.2	56.8	51.3	66.3	62.5	48.4	53.5	58.6	52.9
原材料高	13.4	14.7	11.2	18.3	14.8	17.1	13.5	10.3	10.8	12.5	19.4	20.9	17.1	27.5
設備上の問題	3.6	1.1	2.0	1.2	0.9	0.0	1.4	3.8	1.2	0.0	6.5	0.0	1.4	2.0
製品価格の下降	8.0	10.5	9.2	11.0	8.3	6.6	14.9	11.5	4.8	7.8	4.8	7.0	4.3	7.8
経費の増大	7.1	6.3	12.2	8.5	11.1	5.3	9.5	12.8	9.6	9.4	6.5	14.0	11.4	5.9
人件費の増加	4.5	6.3	5.1	4.9	2.8	6.6	2.7	2.6	2.4	3.1	8.1	0.0	2.9	2.0
金利の引き上げ	2.7	1.1	1.0	0.0	0.9	0.0	1.4	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0
そ の 他	5.4	6.3	3.1	6.1	5.6	5.3	0.0	7.7	4.8	3.1	4.8	4.7	4.3	2.0

好転理由



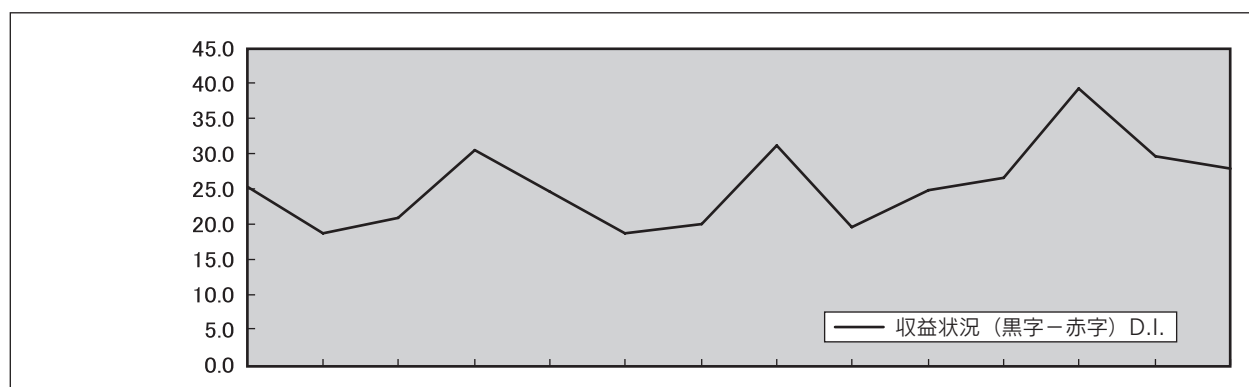
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、前期比12.4ポイント改善し、17.1となった。収益は、好転との回答が大幅に増加となった。また、悪化の回答が減少した。先行きについては、マイナスポイントであり悪化予想となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は最も高いポイントが、「売上高の増加」で82.1%、次に「経費節減」7.4%、「人件費減少」4.2%の順となっている。収益増加には、「売上高の増加」が大きく影響がある。先行きについても理由の順位は、同様の理由となっている。
- (3) 収益が悪化した理由では、「売上高の減少」とするポイントが最も高く、前期より増加している。また、「経費の増大」「製品価格の下降」「原材料高」を悪化理由とするポイントも増加となっている。「設備上の問題」とする回答はなくなった。先行きについては、「原材料高」を理由とするポイントが増加している。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別														見込		予測
	23年				24年				25年				26年				
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	(%)		
黒字	43.6	40.8	43.4	47.4	44.3	41.0	39.1	46.7	39.0	44.3	42.5	53.8	44.9	39.6			
収支トントン	38.1	37.2	34.2	35.9	36.0	36.9	41.9	37.7	41.7	36.3	41.8	31.8	39.9	48.7			
償却後赤字	18.3	22.0	22.5	16.8	19.7	22.1	19.0	15.6	19.3	19.4	15.8	14.4	15.2	11.6			
D . I .	25.3	18.8	20.9	30.6	24.6	19.0	20.1	31.1	19.7	24.9	26.7	39.4	29.7	28.0			



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は39.4となり、前期比12.7ポイント改善となった。この、3年間でD.I.はピークとなっており、企業の収益改善とみえる。先行きについてD.I.は徐々に悪化しているが、4～6月期では28.0と高いポイントとなっている。

## V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	4.6	7.1	4.5	1.3	3.8	3.9	2.5	2.9	0.9	3.6	5.2	4.6	3.7	2.3
適 正	87.1	80.2	87.1	90.4	87.4	89.3	91.5	92.3	91.5	88.8	91.3	89.9	91.6	95.3
過 剩	8.3	12.6	8.3	8.3	8.8	6.9	5.9	4.8	7.5	7.6	3.6	5.5	4.7	2.3
D . I .	-3.8	-5.5	-3.8	-7.1	-5.0	-3.0	-3.4	-1.9	-6.6	-4.0	1.6	-0.9	-0.9	0.0

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

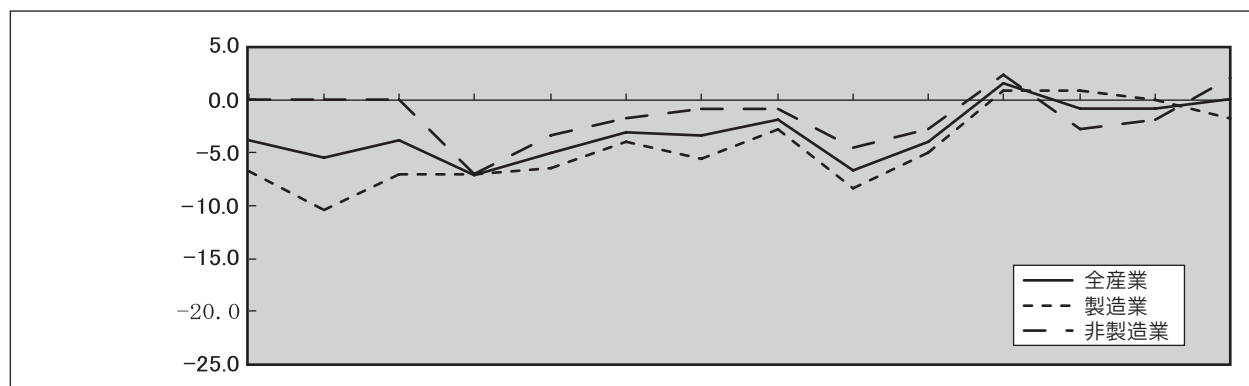
(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	4.5	6.3	4.3	1.6	4.1	2.5	1.6	2.8	1.9	5.1	6.3	5.2	4.3	0.9
適 正	84.1	77.1	84.4	89.6	85.1	91.0	91.0	91.7	87.7	84.7	88.3	90.4	91.3	96.5
過 剩	11.4	16.7	11.3	8.8	10.7	6.6	7.4	5.5	10.4	10.2	5.5	4.3	4.3	2.6
D . I .	-6.8	-10.4	-7.1	-7.2	-6.6	-4.1	-5.7	-2.8	-8.5	-5.1	0.8	0.9	0.0	-1.8

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不 足	4.6	8.1	4.9	0.9	3.4	5.4	3.5	3.0	0.0	1.9	4.0	3.9	3.0	4.0
適 正	90.7	83.7	90.2	91.3	89.7	87.4	92.1	93.0	95.3	93.4	94.4	89.2	92.0	93.9
過 剩	4.6	8.1	4.9	7.8	6.8	7.2	4.4	4.0	4.7	4.7	1.6	6.9	5.0	2.0
D . I .	0.0	0.0	0.0	-7.0	-3.4	-1.8	-0.9	-1.0	-4.7	-2.8	2.4	-2.9	-2.0	2.0



(1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、26年10～12月期は▲0.9となり、前期比2.5ポイント悪化となり、「過剰」とするポイントが高くなった。先行きについても、やや過剰の予想である。

(2) 業種別では、製造業のD.I.は0.9となり、前期比とあまり変化はなかった。非製造業も前期より、5.3ポイント悪化となり、在庫過剰の回答であった。先行きについては、製造業は、在庫過剰の予想であり、非製造業は、在庫不足となる予想と反対の回答となっている。

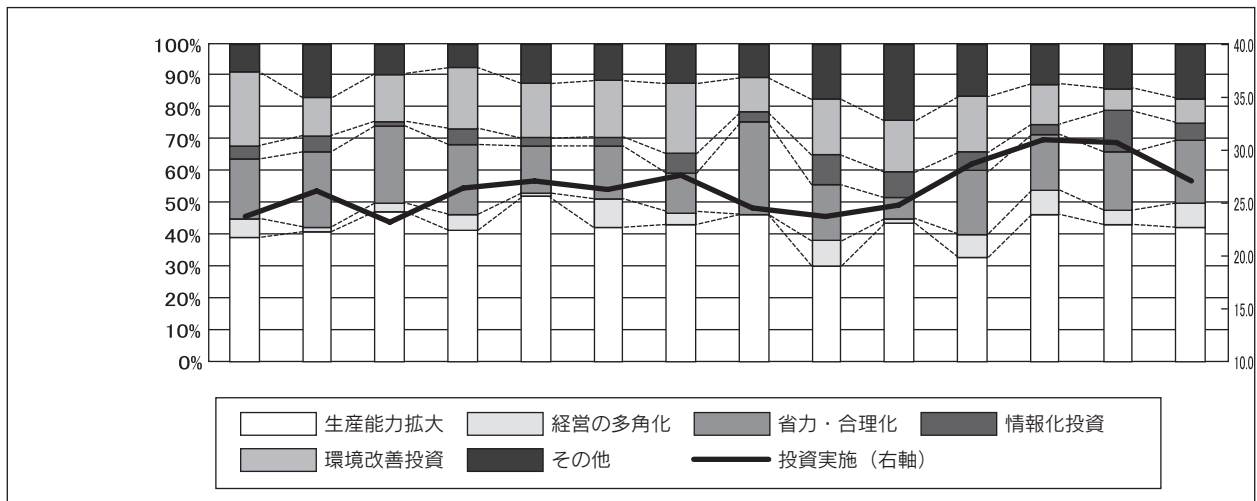
## VI. 設備投資動向

設備投資の有無

		(%)												見込	予測
期別 種別	23 年				24 年				25 年				26年		
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	
投資実施	23.6	26.1	23.2	26.3	27.0	26.2	27.6	24.4	23.7	24.7	28.7	31.0	30.6	27.0	
投資せず	76.4	73.9	76.8	73.7	73.0	73.8	72.4	75.6	76.3	75.3	71.3	69.0	69.4	73.0	

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	39.1	40.7	47.3	41.5	51.9	42.3	43.2	46.2	30.2	39.1	32.9	46.0	43.0	42.1
経営の多角化	5.8	1.7	2.7	4.9	1.2	9.0	3.7	0.0	7.9	1.4	7.1	8.0	4.7	7.9
省力・合理化	18.8	23.7	24.3	22.0	14.8	16.7	12.3	29.2	17.5	5.9	20.0	17.2	18.6	19.7
情報化投資	4.3	5.1	1.4	4.9	2.5	2.6	6.2	3.1	9.5	7.2	5.9	3.4	12.8	5.3
環境改善投資	23.2	11.9	14.9	19.5	17.3	17.9	22.2	10.8	17.5	14.5	17.6	12.6	7.0	7.9
その他	8.7	16.9	9.5	7.3	12.3	11.5	12.3	10.8	17.5	21.7	16.5	12.6	14.0	17.1



- 今回調査では、設備投資を実施した企業は全産業の31.0%と、前期比2.3ポイント増加した。先行きについて、26年1～3月では30.6%、4～6月では27.0%の企業が設備実施見込となっている。実施の目的別では、前期に比べ「生産能力拡大」とするポイントが大幅に増加している。「省力・合理化」「環境改善投資」を目的とする設備は減少している。
- 業種別の、製造業では「出版印刷紙加工」「医薬品製造」「プラスチック」「アルミ製品製造」の順で設備投資実施のポイントが高い。非製造業では、「運送業」「宿泊業」が設備投資を行った企業が多い。先行きについても、「アルミ製品製造」「プラスチック」の設備投資予定は高いポイントとなっている。

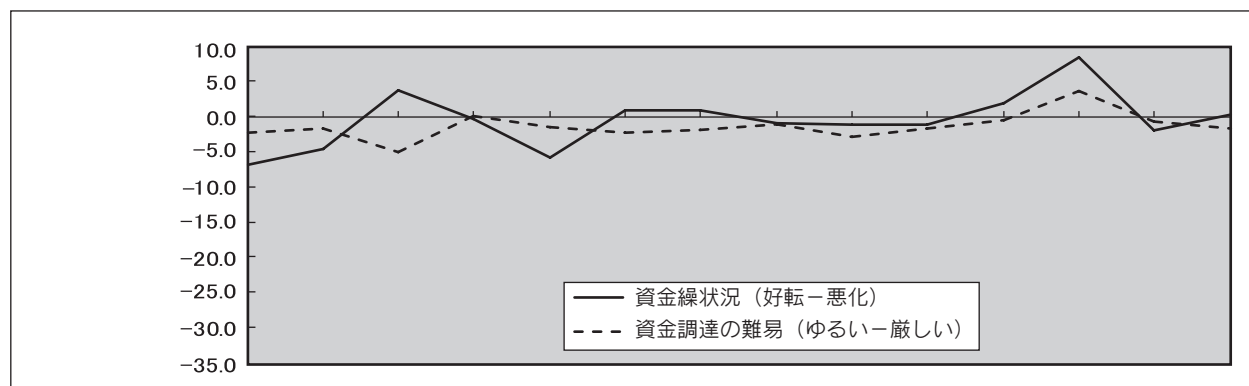


## VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
好転	5.5	11.5	10.0	9.9	7.0	11.8	10.9	9.5	8.6	10.1	8.8	13.9	7.9	7.5
変わらず	82.2	72.6	83.8	79.8	80.3	77.4	79.3	80.3	81.6	78.8	84.4	80.8	82.5	85.4
悪化	12.3	15.9	6.2	10.3	12.7	10.8	9.9	10.2	9.8	11.2	6.8	5.3	9.6	7.1
D . I .	-6.8	-4.4	3.7	-0.3	-5.7	1.0	1.0	-0.8	-1.1	-1.1	2.0	8.5	-1.8	0.4



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

種別	23 年				24 年				25 年				26年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
ゆるい	12.1	11.8	10.1	12.6	12.5	12.3	10.8	11.3	11.7	11.4	11.1	14.8	12.8	11.1
厳しくない	73.4	74.7	74.8	74.8	73.3	73.0	76.3	76.3	73.4	75.3	77.1	74.2	73.6	76.0
厳しい	14.5	13.6	15.1	12.6	14.2	14.7	12.9	12.5	14.8	13.3	11.8	11.1	13.6	13.0
D . I .	-2.4	-1.8	-5.0	0.0	-1.7	-2.5	-2.1	-1.2	-3.1	-1.8	-0.7	3.7	-0.8	-1.9

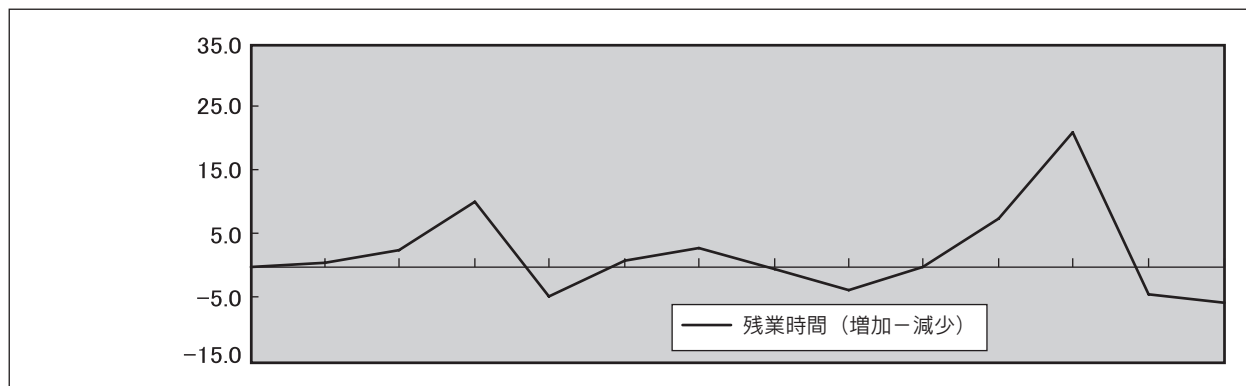
(1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、8.5と前期より改善となった。資金繰り状況のポイントは、過去3年間のピークとなり、資金繰りは安定してきている。先行きについては、26年1～3月期はマイナスポイントとなり、悪化予想となっている。しかし、4～6月期には、やや改善すると予想している。

(2) 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」では、3.7となり、前期より4.4ポイント改善しており「ゆるい」との回答が多くなった。先行きについては、再びマイナスポイントであり、厳しいとの予想である。厳しいとのポイントが高い主な業種は、製造業では「繊維」「木工建具」であり、非製造業では「宿泊業」「不動産業」と前期と同じ業種であった。

## VIII. 労務事情

残業時間

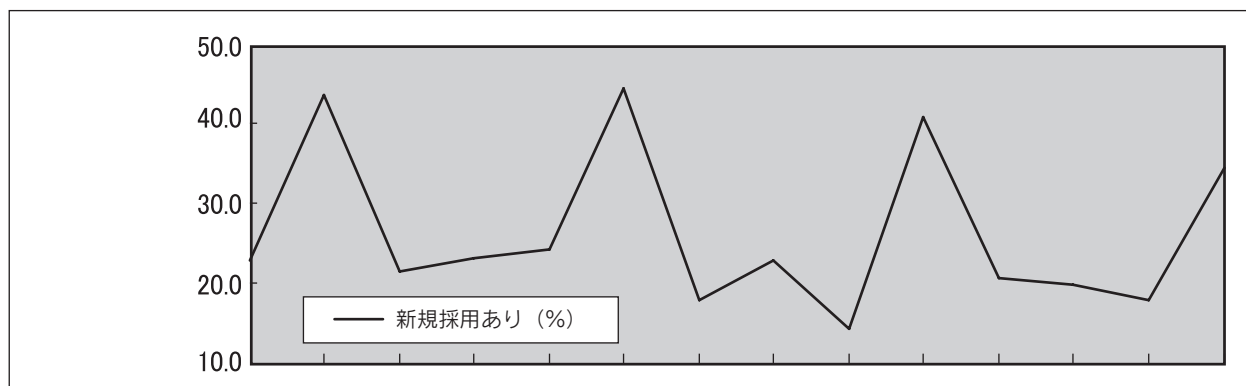
		(%)												見込	予測
種別	期別	23年				24年				25年				26年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加		17.4	20.0	16.9	20.1	14.8	12.7	13.3	12.7	12.0	13.3	15.4	26.3	7.5	6.0
横ばい		64.9	60.5	68.5	69.7	65.5	75.4	76.0	73.7	71.8	73.0	76.6	68.6	80.2	82.5
減少		17.7	19.5	14.6	10.2	19.7	11.9	10.6	13.6	16.2	13.7	8.1	5.1	12.3	11.5
D.I.		-0.4	0.5	2.4	9.9	-4.9	0.8	2.7	-0.8	-4.1	-0.4	7.3	21.2	-4.7	-5.6



(1) 残業時間D.I.は25年10～12月期21.2となり、前期比13.9ポイント増加した。残業時間は、売上高増加に伴い、増加している。先行きについては、減少予想となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

		(%)												見込	予測
種別	期別	23年				24年				25年				26年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
全産業		22.6	43.7	21.3	22.9	24.0	44.6	17.7	22.6	14.3	40.9	20.3	19.6	17.5	34.3
(うち製造業)		25.9	42.2	17.6	18.6	20.0	48.9	17.6	16.1	13.6	40.2	20.0	18.1	17.2	37.5
(うち非製造業)		19.6	45.0	24.6	26.5	27.1	41.3	17.8	27.9	14.9	41.4	20.5	20.9	17.8	31.6

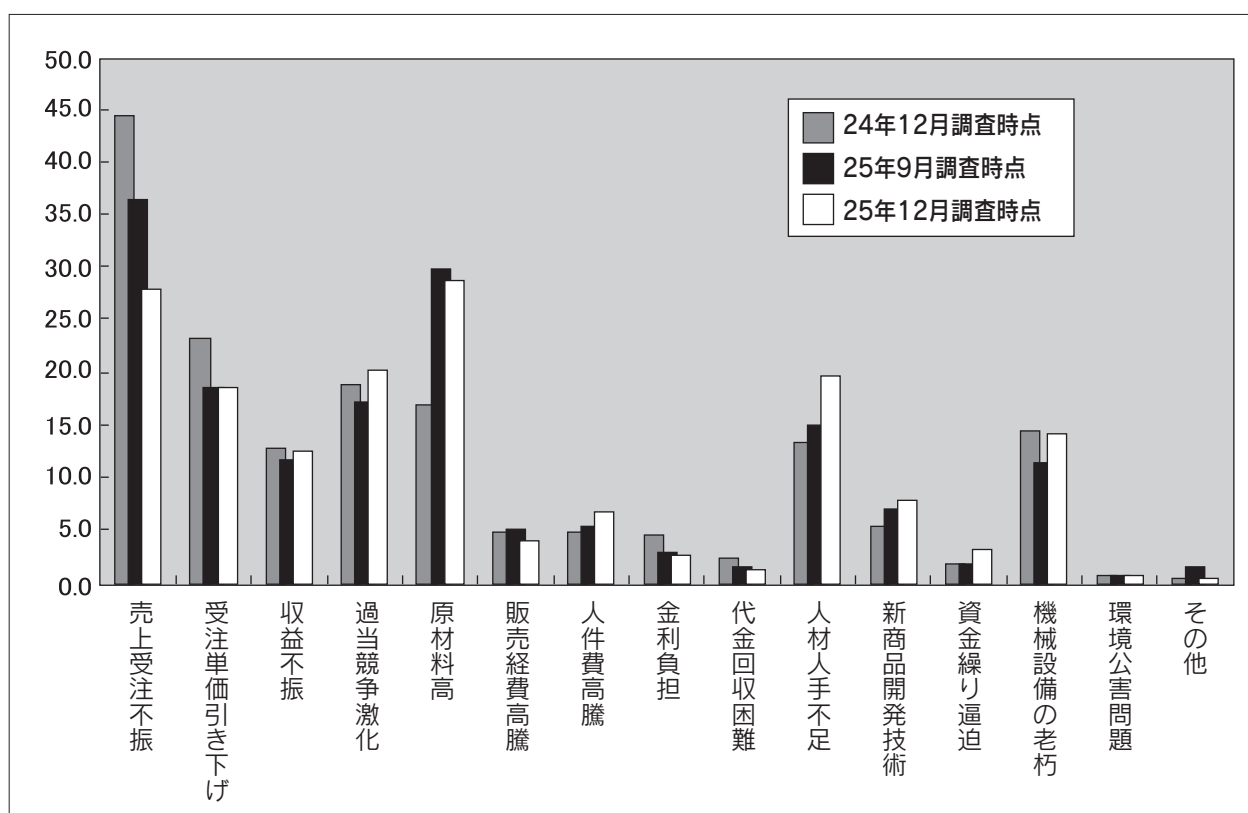


(2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、前年同期に比べ、3ポイント減少している。製造業は増加し、非製造業は減少となっている。先行きについては、例年どおり4～6月は採用増加であるが、前年同期に比べやや低い。

## IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	24年12月 (前年同期)	25年9月 (前回)	25年12月 (今回)	25年12月		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	44.4	36.5	27.8	(36.7)	(20.3)	-8.7
受注単価引き下げ	23.3	18.6	18.5	(25.8)	(12.4)	-0.1
収益不振	12.8	11.8	12.5	(10.2)	(14.4)	0.7
過当競争激化	18.8	17.2	20.3	(12.5)	(26.8)	3.1
原材料高	16.9	29.7	28.8	(29.7)	(28.1)	-0.9
販売経費高騰	4.9	5.1	3.9	(1.6)	(5.9)	-1.2
人件費高騰	4.9	5.4	6.8	(2.3)	(10.5)	1.4
金利負担	4.5	3.0	2.5	(1.6)	(3.3)	-0.5
代金回収困難	2.3	1.4	1.1	(1.6)	(0.7)	-0.3
人材人手不足	13.2	14.9	19.6	(14.8)	(23.5)	4.7
新商品開発技術	5.3	7.1	7.8	(14.1)	(2.6)	0.7
資金繰り逼迫	1.9	1.7	3.2	(1.6)	(4.6)	1.5
機械設備の老朽	14.3	11.5	14.2	(16.4)	(12.4)	2.7
環境公害問題	0.8	0.7	0.7	(0.8)	(0.7)	0.0
その他	0.4	1.4	0.4	(0.0)	(0.7)	-1.0



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①原材料高28.8%(前期比▲0.9ポイント)、②売上受注不振27.8%(前期比▲8.7ポイント)、③過当競争激化20.3%(前期比+3.1ポイント)の順になっている。
- 今回調査では、原材料高を問題点とする企業が最も高いポイントとなっている。また、過当競争激化を問題とするポイントも増加となった。
- 原材料高を問題点として高いポイントとしている業種は、製造業では「窯業土石」「木材業」「出版印刷紙加工」であり、非製造業では、「運送業」「卸売業」となっている。

## X. 為替変動に対する影響

		見込 予測 (%)				
項 目		25年4～6月	25年7月～9月	25年10月～12月	26年1～3月	26年4～6月
売 上 高	好 転	2.2	5.6	5.1	5.1	3.4
	悪 化	3.6	4.0	1.7	0.9	0.9
	影響なし	94.2	90.4	93.2	94.0	95.7
仕 入 高	好 転	1.8	1.2	2.1	0.9	0.4
	悪 化	17.3	15.1	17.2	17.3	16.4
	影響なし	80.9	83.7	80.7	81.8	83.2
営 業 利 益	好 転	2.2	4.4	4.7	3.0	2.6
	悪 化	13.5	10.7	12.4	12.4	12.0
	影響なし	84.3	84.9	82.9	84.6	85.4

- (1) 為替変動について、売上高に影響があったと回答した企業は、前期に比べやや減少となった。悪化したとの回答が減少となっている。先行きについても、悪化の回答は減少傾向にある。
- (2) 仕入高についても、「影響あり」と回答は減少となった。「悪化した」との回答が、17.2%となり、前期より2.1ポイント増加した。営業利益でも、「影響あり」との回答が減少している。営業利益でも、「悪化した」との回答が高くなっている。
- (3) 先行きについては、影響あるとのポイントは増加予想であり、仕入高営業利益に対し好転するとのポイントは、減少予想となっている。